

新入生にすすめる 50冊の本

2018

[表紙写真タイトル：桜花爛漫]

寒い冬が終わり暖かくなった今日。桜たちは喜び、花びらの舞を踊ります。

(福山大学「桜のフォトコンテスト」2017年度最優秀作品)

写真提供： 加藤 佑典 (工学部建築学科 2 年)

撮影場所：福山大学工学部棟 横

本で頭を鍛える！

皆さん、ご入学誠におめでとうございます。
本学では、昨年度後期から「福山大学読書推進システム」のトライアルが始まり、今年本格始動します。これは、学内のインターネットシステムから体験する読書活動で、図書館で一冊の本を選んで、新入生にその本をすすめる文章を書き、ネットから投稿するものです(1年の科目「日本語表現法」で紹介)。本書に掲載の文章には、このシステムを使って書かれた文章の中から選ばれた優秀作品も含まれています。

読書はなぜ必要か、これはまだ答えが出ていないかもしれません。ただ、新しい考えを作りだすのに、考えを言葉でまとめる過程は必須で、その基礎は本を読むことにあるのです。松岡正剛著『多読術』では、新しい考えが出て来る過程を、インプット=読書とアウトプット=表現の間で行われる「編集」という活動だと述べています。読書は頭を鍛えます。

本学HPのCerezoにアクセスして下さい。読書のお供をする猫がお待ちしています。ヴァーチャル図書館で読書ミニ体験をどうぞ。あなたが、来月号の執筆者の一人になるように。

福山大学附属図書館
館長 青木 美保



人生の道しるべ

- 男同士の友情を感じさせてくれる本。 稲葉遼太郎
『キケン』 有川浩 著1
- 人と自然は共に生きている 漆原啓太
『宮崎アニメの暗号』 青井汎 著2
- 「頑張る」とは何か？ 柏原大空
『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて
慶應大学に現役合格した話』 坪田信貴 著3
- 一生懸命に生きる姿を見せてくれた小説 菅 優樹
『キッチン』 吉本ばなな 著4
- 失われてしまった「日本のこころ」。
私達が忘れてしまった美しい日本人の姿がこの本にはある。 柿本大輔
『国を誤りたもうことなかれ』 近藤道生 著5
- きっと、読み終わったあと、「この人にあってみたい」と思わせる
そんな1冊です。 片桐重和
『キャッチ！』 岡崎愛子 著6
- ユネスコ無形文化財遺産の「和食」ってどんな味なの 桑田成年
『一汁一菜でよいという提案』 土井善晴 著7

挫折、試練を乗り越えた先にあるもの。	齊藤 将
『日本男児』長友佑都著	8
青山学院大学を箱根駅伝で4年連続優勝に導く	清水厚實
『逆転のメソッド』原 晋著	9
ご飯との出会い	玉木友理奈
『東京すみっごはん』成田名璃子著	10
一步踏み出せば何かが始まる！	高橋佳美
『僕たちが何者でもなかった頃の話をしよう』山中伸弥[ほか]著	11
あなたの人生 1 年、いくらで売れますか。査定に出してみませんか。	三吉滉大
『三日間の幸福』三秋縋著	12
真にネガティブなものなど存在しない	矢田貝洋平
『そして生かされた僕にできた、たった1つのこと』ダン・カロ、スティー ヴ・アーウィン著	13
ある経験をめぐり抜けた人にこそ見える景色とは	山崎理央
『いのちの落語』樋口強 著	14



学びの道しるべ

ありふれた日常の中に潜む驚きと発見の数々！ 生田泰士
『調べてみよう!!地面のボタンのナゾ』日本土地家屋調査士会連合会編
.....15

ハーバード大学で実際に行われている授業を一冊の本に
まとめたものです。 内田大一
『ハーバードの人生を変える授業』タル・ベン・シャハー 著16

何で本を読まなきゃいけないの？ 大谷恭子
『勉強するのは何のため？』苫野一徳 著17

好きこそ物の上手なれ 喜多村侑佳
『古代ギリシャのリアル』藤村シシン 著18

教員と学生がクール・ヘッドとウォーム・ハートを求める
ゼミの意義がわかる、温かい本 早川達二
『花失せては面白からず』城山三郎 著19

スランプとの付き合い方を身につけて目標を達成させよう 藤井香苗
『スランプに負けない勉強法』千葉博 著20

正しい日本を知ろう 堀 晃太
『日本人はなぜ日本のことを知らないのか』竹田恒泰 著21

コミュニケーションとは	松田将太
『コミュニケーション力を引き出す』 平田オリザ，蓮行著	22
善悪とはなんなのか。	松本勇慎
『善と悪』 大庭健著	23
英語ってこんなにも面白い！	丸谷美貴
『日本人の英語』 マーク・ピーターセン著	24
英語に対する意識を変える本	吉津悠子
『日本人の英語勉強法』 ジェームズ・M・バーダマン著	25



科学の道しるべ

読みたくなる！水族館の秘密を今知ろう！！	安保大輝
『水族館の通になる』 中村元著	26
ネガティブな思考をコントロール 自分の力をさらに高める	川田浩介
『正しい恨みの晴らし方』 中野信子，澤田匡人著	27
私たちだけがなぜ生き残れたのか？	松田文子
『人類進化 700 万年の物語』 チップ・ウォルター 著	28



文学の道しるべ

悲しい物語

伊藤豪俊

『容疑者 X の献身』 東野圭吾 著

.....29

レジェンド・ファンタジー

大澤祐美

『ハリー・ポッターと賢者の石』 J.K.ローリング 著

.....30

思いもよらないラストがあなたを待っている

大窪和希

『花の鎖』 湊かなえ 著

.....31

「人間」として問題に向き合うことのできる一冊。

片山菜々花

『往復書簡』 湊かなえ 著

.....32

歴史を変える瞬間

重森貴寅

『天地明察』 沖方丁 著

.....33

物語は最悪の方向へ...

瀬川大毅

『貴族と奴隷』 山田悠介 著

.....34

下町ヒューマンドラマ

園尾晋吾

『下町ロケット』 池井戸潤 著

.....35

聞こえない≠伝わらない

高橋悠香

『レインツリーの国』 有川浩 著

.....36

世界における日本人が残したジョーク集	田中琢斗
『世界の日本人ジョーク集』 早坂隆 著	37
本からのアドバイス	筒井裕香
『西の魔女が死んだ』 梨木香歩 著	38
愛のうたを届ける 切なくとも愛しい物語	藤井由実
『銀の犬』 光原百合 著	39
人間らしく生きるには	松浦詩歩
『怪物はささやく』 パトリック・ネス 著	40
「心でつながる家族」を学べる一冊！！	蜜石武留
『精霊の守り人』 上橋菜穂子 著	41
自分の存在意義と仲間の存在の大きさ	道上拓海
『桜風堂ものがたり』 村山早紀 著	42
痛々しいまでの純粋さが眩しいです	山根詩菜
『キリン』 山田悠介 著	43



こころの道しるべ

- 「心を整える。」・・・。和泉翔大
『心を整える。』長谷部誠著・・・・・・・44
- 現状に納得できず立ち尽くしている、そんなあなたに。岡田紘汰
『夢をかなえるゾウ』水野敬也著・・・・・・・45
- 幸せとは、何ですか？橘高裕実
『また、同じ夢を見ていた』住野よる著・・・・・・・46
- 「幸せになりたい」って言葉、ちょっと耳を澄ますと、若い子の会話から必ず聞こえてきます。
この本から幸せになるためのヒントがつかめるかもしれませんよ。辻圭位子
『幸せのメカニズム』前野隆司著・・・・・・・47
- 精神の強さや思いやりの優しさを学べる一冊壺谷悠希
『あなたをずっとあいしてる』宮西たつや作絵・・・・・・・48
- 一分前の出来事を思い出せない。健忘症患者 H・M の世界を
あなたは想像できますか。村井宏枝
『ぼくは物覚えが悪い』スザンヌ・コーキン著・・・・・・・49
- 感動あり涙ありの心温まる話です！森田和輝
『80 点コロッケ』ニッポン放送『上柳昌彦のお早う Good Day!』編・・・・50

(備考：所属は平成 30 年 3 月現在です。)



男同士の友情を感じさせてくれる本。

『キケン』

有川 浩 著（新潮文庫）

この本は男同士の友情を感じさせてくれる本です。男同士ならではのバカバカしさやストイックさを巧みに表現しており是非皆さんに一度は読んでいただきたい作品の一つです。この主人公達は工学部の大学生なのですが工学部であるが故の話や学校行事の話などとても心躍るものばかりです。私が一番好きなシーンは文化祭でラーメンの店を出す話なのですが、この話ではレシピは適当で美味しいものが作れなかったり、ほかのラーメンの出店をしているサークルに嫌がらせをされたり等、色々な事が起こります。ですが飲食店の子である主人公や、立場の強い先輩など多くの人がそれぞれの長所を活かして文化祭を成功に導きます。その話の中でもバカな事を忘れずに入れてくる作者様の実力の高さは素晴らしいと思ったことを今でも覚えています。友人の大切さ、素晴らしさを教えてくれるこの本を是非皆さん読んでみてください。

稲葉 遼太郎（機械システム工学科 1 年）



人と自然は共に生きている

『宮崎アニメの暗号』

青井 汎 著（新潮新書）

最近では、新作が公開されるたびに映画の興行記録を塗り替える宮崎アニメ。

宮崎駿のアニメ作品には、様々な仕掛けが巧みに隠されている。表層のエンターテインメント性に惑わされることなく、暗号を一つ一つ解読していくと、宮崎駿が見つめている深く広い世界が見えてくる。単なるアニメ論を超え、多くの日本人が忘れかけた真情を呼び覚ます注目の論考である。

この本では宮崎駿が世に出したアニメ映画の中に描かれている思いを作品ごとから読み取っていかうとしている本である。その中によく人と自然との関係性を表現した描写が書かれている。それはその作品を通して人間と自然とは共に生きていることを伝えたいのではと考える。それは、我々が今一度森を訪ねることを促しているのではないだろうか。再び森と生と人と世界とを繋げるために。

漆原 啓太（建築学科4年）



「頑張る」とは何か？

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて 慶應大学に現役合格した話』 坪田信貴 著 (KADOKAWA)

頑張るとは何か？どうするべきか？どう考えるべきか？ということを知りたいと思いこの本を手にとった。この本はノンフィクションで、偏差値30の女子高生の主人公が成績学年ビリから慶応大学現役合格を目指す話である。主人公は塾の先生とやり方を工夫しながら勉強を頑張っていく。途中、父親や学校の先生から馬鹿にされ、様々な困難や精神的な苦痛に直面するが、塾の先生、母親、姉妹、友達に色々と支えられながら困難を一つ一つ乗り越えていく。そして、気持ちを強く持ち、寝る間も惜しんで努力した結果、慶応大学へ現役で合格する。最後は学校の先生も父親も見返した。無理だと言われていたことを見事に主人公はやったのけたのだ。私がこの本を読んで感じたことは、自分は果たして今努力しきれているだろうかという事である。今、不可能と思っていることもやり方次第、気持ちを次第で可能になるのではないかと考えた。私はもっと自分の可能性を広げられるのではとこの本を通して考えさせられた。

柏原 大空（人間文化学科1年）



一生懸命に生きる姿を見せてくれた小説

『キッチン』

吉本ばなな 著（新潮文庫）

『キッチン』は高校生のころに1度読んだ、とても読みやすい作品です。両親と祖父を幼いころに亡くした桜井みかげは、祖母と二人で暮らしていましたが、その祖母も亡くなってしまい、一人ぼっちになってしまいました。そんな折、祖母の行きつけの花屋でアルバイトをしていた田辺雄一という1歳年下で、同じ大学に通う大学生から、うちに来ないかと誘われて一緒に暮らすことになりました。しかし大学では、田辺家にみかげが居候していることが話題になり、そのせいで雄一は彼女と別れてしまいました。みかげはいつかここから出なくてはならないと思いました。でも、雄一と母のえり子はみかげが本当の元気を取り戻すまでは家にいてもいいんだと言ってくれました。田辺家の2人の朗らかな性格のおかげで、みかげはつらい現実から解放され、明るさを取り戻すことができてよかったと思いました。

この作品は、主人公の心の揺れ動き、孤独の葛藤、人の死という重いテーマが、暗すぎることなく書かれていて、ぐっと引き込まれました。人生は嫌なことや、逃げ出したいこともあるけれど、前を向いて生きていこうという気持ちにさせてくれる作品だと思います。

菅 優樹（建築学科1年）



失われてしまった「日本のこころ」。
私達が忘れてしまった美しい日本人の姿がこの本にはある。

『国を誤りたもうことなかれ』

近藤道生 著（角川学芸出版）

『国を誤りたもうことなかれ』まず、タイトルが特徴的だと思いますか？この本は、筆者のリアルな戦争体験を生々しく描いており、きっと今までの第二次世界大戦のイメージが少し変わると思います。開戦の背後にはソ連と中国が協力して、日本とアメリカという資本主義国どうしを戦わせるということがあったり、それを手助けするためにソ連のスパイが暗躍したこと、そしてそのスパイのなかに日本人がいたこと…。これらの事実を知った上でこれからの日本を考えて生きていかなければならない。そして考えていくきっかけとして、「大東亜戦争前後の国家の中枢の考え。沈没する軍艦で救命具を譲った「士道」の精神。靖国神社の役割。汎神論的・多神教的な日本人の思考の美点。」など、多くのことが散りばめられています。

筆者も文中で述べていますが、戦前の日本に見られた男子の面目と、伝統の婦道という良い面は、絶滅の危機に瀕しているということ。これからの21世紀の「日本のこころ」を考えるきっかけを与えてくれる良い本であると思います。

柿本 大輔（人間文化学科1年）



きっと、読み終わったあと、
「この人にあってみたい」と思わせるそんな1冊です。

『キャッチ！

—JR 福知山線脱線事故がわたしに教えてくれたこと』

岡崎愛子 著（ポプラ社）

2005年4月25日、あなたは、まだ生まれていなかったかもしれないね。そんな昔、昔に起きた事故を経験した人のお話です。通学に電車を使っている人には明日は、我が身かもしれない脱線事故。そうこの本は、2005年に起きた「JR 福知山線の脱線事故」の車両に乗り合わせ、頸椎^{けいつい}を損傷する大怪我をおった著者のノンフィクション物語です。頸椎を損傷すると程度にもよるが首から下が動かせないらしい。

あなたならどうするだろう。

平穏だった日常が、音もなく、一瞬にして消えさる。もしかしたら人生を諦めてしまうかもしれないね。しかし、そんな状態でも、著者は「事故のせいにしない」「諦めるのは一番最後」「未来は自分で取りにいく」という。ああ、人は、こんなにも強いんだよと教えてくれる。

そんな一冊です。

片桐 重和（共同利用センター）



ユネスコ無形文化財遺産の「和食」ってどんな味なの

『一汁一菜でよいという提案』

土井善晴 著（グラフィック社）

和食が受賞した理由には、

1. 食材の持ち味を尊重する（旬の食材を楽しむ）
 2. 栄養バランスに優れている（動物性油脂を余り使用しない）
 3. 暮らしの行事と共にある（節句やおせち等）
 4. 自然の移ろいを表現する（プレゼンテーション）
- があります。これって、一流店のシェフの料理のことでしょうか。いや、日本の家庭料理が素晴らしいからこそ受賞できたのです。

朝、台所から聞こえてくる音、それはおいしい食べ物ができる音です。その音を聞くと人は幸せな気持ちになります。そして、調理する音は食欲をそそり、生命を維持する音に変わります。白いご飯が茶碗によそってあると、生命の息吹を感じることができます。その横に旬の具材をふんだんに入れた味噌汁と、栄養を補う僅かのおかずがあれば、人は「ホッ」とした気持ちになれます。一般に食卓には 4~5 品といわれていますが、沢山作る必要はありません。白ご飯と具だくさんの味噌汁。それだけで家族は幸せになれるのです。

桑田 成年（職員）



挫折、試練を乗り越えた先にあるもの。

『日本男児』
長友佑都 著（ポプラ社）

好きな子を振り向かせたい気持ちからサッカーをはじめ、サッカーに徐々にのめりこんでいくことになる。しかしある日母に思いもよらない言葉を告げられる。「これから、母さんと…の4人でいくことになったから。」父さんと離婚し、転校することになる。母子家庭ならではの辛さなどを感じながら成長していく。サッカーが大好きな佑都（長友佑都）だったが、ある日、強豪チームのセレクションを受けるが落選し、進学する中学校のサッカー部に所属することになる。しかしそのサッカー部は不良の巣窟のような場所でサッカーができる環境ではなかった。そのため、落選や反抗期などが重なりサッカーや勉強をおろそかにし、ゲームセンターなどで遊び呆けていた。しかし、入学と同時に赴任してきた井上先生に出会い徐々に先生の熱意、本気でサッカーをさせてあげたいと言う気持ちが伝わり徐々に打ち解けていく。佑都も母への感謝を再確認し、前に進み始める。ここが人生のターニングポイントになるのだ…。

齊藤 将（人間文化学科1年）



青山学院大学を箱根駅伝で4年連続優勝に導く

『逆転のメソッド』

—箱根駅伝もビジネスも一緒です—

原 晋 著（祥伝社新書）

本書は青山学院大学陸上競技部監督 原晋さん（三原市出身）が、平成30年1月の箱根駅伝で4年連続して優勝した経緯を詳しく物語っている体験談であります。原さんが陸上競技部監督に就任してから9年目（平成27年）にして、ようやく創部以来、初めて優勝するという快挙をあげ、その後28年、29年、30年と4年連続で優勝しています。原さんは10年余にわたって中国電力陸上競技部で、事業と競技の両方に携わったあと、青山学院大学より招かれて駅伝部の指導に当たったもので、中国電力におけるビジネスの経験が大いに役立ったとし、「箱根駅伝もビジネスも一緒」と語っています。特に学生の指導に当たっては、「規則正しい生活から」をモットーに、第1は学業をしっかり身につけること、第2に陸上競技部の練習には必ず参加し、力をつけることを義務づけています。また部員は寮で監督夫妻と共に生活し、お互いの人間関係を深めるなど、人とのご縁と情熱をもって目標に向かうことの大切さを語っています。

清水 厚實（理事長）



ご飯との出会い

『東京すみっごはん』

成田名璃子 著（光文社文庫）

私は『東京すみっごはん』という本を皆さんにご紹介します。

この本の主人公は、学校でいじめを受けているため、昼飯を1人で食べています。そんな主人公を救ったのは、東京の下町にある「共同台所 すみっごはん」という食堂でした。食堂の前で立ち止まった主人公を優しく迎え入れてくれた丸山さんや、サクサクのクリームコロッケを主人公に振る舞ってくれた料理人の金子さん、ポテトサラダを作ってくれた田上さんの存在に主人公は救われます。ラインで仲間外れにされたり中傷されたりする主人公ですが、「共同台所 すみっごはん」は会員制の料理当番制であったため、主人公は料理を作ることになります。その際にスマートフォンのピコン、ピコンという着信音が料理の邪魔になったため主人公はスマートフォンを持ち歩かなくなります。

この本を読めばお腹が空くこと間違いなし！

ポップな表紙で絵も可愛いので、ぜひ読んでみて下さい。

玉木 友理奈（人間文化学科1年）



一歩踏み出せば何かが始まる！

『僕たちが何者でもなかった頃の話しよう』

山中伸弥[ほか] 著（文春新書）

これは色々な分野で活躍されている、山中伸弥氏（京都大学 iPS 細胞研究所所長）、羽生義治氏（将棋棋士）、是枝裕和氏（映画監督）、山極壽一氏（京都大学総長、霊長類学者）の 4 人の方の講演と、永田和宏氏（京都産業大学教授、細胞生物学者・歌人）との対談を収録した本です。

山中さんは、研修医時代は整形外科医をされていたそうです。外科医だった山中さんがアメリカに渡り、どうやってノーベル生理学・医学賞を受賞されるまでになられたのか…。

どんな偉大な人にも、悩み、失敗を重ねた挫折の時期があったのです。失敗をして落ち込むのではなく、何が原因かを考える。失敗しても夢中になれる事を追いかける。何事にも失敗を恐れずに 1 歩踏み出して、大学生としての時間を“何もしなかった”では、終わらせないでください。

皆さんは将来、何者になるのでしょうか？

講演と対談形式なので、読み易いと思います。

高橋 佳美（職員）



あなたの人生 1 年、いくらで売れますか。
査定に出してみませんか。

『三日間の幸福』

三秋 継 著（メディアワークス文庫）

小学生の頃は、偉い人になると思っていたクスノキ。それから時は経ち平凡で貧困な生活を送っていた。そんなある時、町で奇妙な噂を聞く。"寿命を買い取ってくれる店がある"と。希望を胸にいざ査定。しかし言い渡されたのは…。僕が初めて読んだのは、高校生の頃でした。クスノキの小学生時代が見事に自分にそっくりで、そしてその後平凡になったところまでそっくりで、感情移入がしやすかったです。そして今自分は大学生。改めて読んで、お金が無いこと、バイト先での理不尽と重なるところが増えました。寿命を買い取ってくれる店は無いですかね。

大きなポイントの"寿命の金額"。 自分自身の人生の価値について、少し考えさせられる物語です。行動次第で幾らでも変わると勇気を貰いました。そして最後は感動します。少し切なく、そして羨ましい。是非とも読んでみてください。

三吉 滉大（心理学科 3 年）



真にネガティブなものなど存在しない

『そして生かされた僕にできた、たった1つのこと
—プラス思考で奇跡を起こした少年』
ダン・カロ, スティーヴ・アーウィン 著, 奥野節子 訳
(ダイヤモンド社)

この本はダン・カロという一人の人の話です。彼が2歳のときに会ってしまったこと、それから彼が思い、考え、行動し、生きていること。それから学べることはあなたに様々な驚きを与えてくれるでしょう。彼の、ある意味でいえば味方、違う意味であれば敵であるガソリン爆発により受けた全身火傷。彼はそれをプラス思考のきっかけにしてみました。自分の人生と向き合うためのきっかけに。これができる人がいったいどれだけののでしょうか。彼の言葉に「真にネガティブなものなど存在しない。それに対してどう反応するかによって、それが役に立つものになるか害になるかが決まるのです。」というのがあります。自分にはそれがなによりの反応を得ました。ぜひ、あなたもこの本を読んで反応してみては？

矢田貝 洋平（建築学科1年）



ある経験をくぐり抜けた人にこそ見える景色とは

『いのちの落語』 樋口 強 著（文藝春秋）

著者の樋口強さんは、会社員として働き盛りの43歳のときに悪性度の高い肺がんが見つかり、人生の大きな転機を迎えました。「3年生存率5%、5年生存率は数字なし」と宣告されるも、可能性に賭けて手術で右肺の一部を摘出し、抗がん剤治療が何度も続きます。

大学時代に落語研究会で打ち込み、仕事が多忙になってからは落語から遠のいていた樋口さん。病室で何もできず意識がもうろうとする中、ふとしたきっかけで落語の録音テープを聴いたことが闘病の支えになりました。こんなときでも笑える落語を、またやりたい、と強く思ったそうです。

手術から5年生き抜いた樋口さんはその記念に、がん患者や家族を無料招待して落語独演会を開き、自らの闘病体験、生きる喜びを落語で表現したのです。この独演会はその後も毎年1回開かれており、先日（2017年9月）の新聞記事では最近17回目を数えたと知って嬉しくなりました。表紙の笑顔が良いです。

山崎 理央（心理学科）



ありふれた日常の中に潜む驚きと発見の数々！

『調べてみよう!!地面のボタンのナゾ』

——番外らいボタンをさがせ!』

日本土地家屋調査士会連合会編（日本加除出版）

タイトルに惹かれて、何気なく手を伸ばしたのがこの本との出会いである。小学校の下校の途中、何気なく地面を見るとそこには赤いボタンがあった。さらに辺りを見渡すと色の違う様々なボタンが同じように地面にくっついていていた。このボタンは、一体何なのか。

その疑問を知るべく、調査は国土交通省をも巻き込む事態となる。そこで知るボタンの名前、役割の数々。しかしその中、なかなか見つけることのできない難敵「がいく三角点」の存在を知る。マンションの近くにもショップにもない「がいく三角点」。答えを求め、一行はなんと国土地理院に突入する。しかし、答えは意外なほど身近にあった。その場所とは、にな川小学校の屋上である!!日常の中のかすかな疑問を知るために国土交通省や国土地理院にも赴く行動力、小さなことに疑問を抱く好奇心。この本から得るものは決して少なくないはず。この本の著者のように日常の風景に疑問を抱くことが楽しく生きるコツかもしれない。

生田 泰士（人間文化学科1年）



ハーバード大学で実際に行われている授業を
一冊の本にまとめたものです。

『ハーバードの人生を変える授業』

タル・ベン・シャハー 著，成瀬まゆみ 訳（大和書房）

この本はハーバード大学のある授業の内容を一冊の本にまとめたものです。授業というと何かメモを取ったり勉強したりというイメージですが、この本は少し違います。この授業は、講義で習ったことを実践することを重要視しています。この本を読むだけで多くの知識を身につけることができますが、実践することでより多くのことを体得することができます。実践することはどれもシンプルなものばかりで、寝る前の少しの時間に1人でも複数人でも行うことができます。私はちょうど就職活動をしているときにこの本を読んでいたのですが、この本に書いてあることを実践している時は心を無心にするのができ、実践した後は自分の心がいつも落ち着いた状態になっていて、また明日から頑張ろうという気持ちで眠りにつくことができました。

この本で学んだことや実践したことは一生生かしていけるのではないかと思います。

内田 大一（心理学科4年）



何で本を読まなきゃいけないの？

『勉強するのは何のため？

—僕らの「答え」のつくり方』

苦野一徳 著（日本評論社）

誰でも一度は思ったことがある「どうして勉強しなきゃいけないの？」には答えがあるのでしょいか。同じように「何で本を読まなきゃいけないの？」とも、思ったことはありませんか。本書の中に答えがあります。

哲学者であり、教育学者である筆者が、誰でも納得できるような答えを、シンプルに説いています。

「自分だけの限られた経験を、ほかの人にもあてはまるものと考えてしまうこと」を「一般化」と言っています。わたしたちは自らの成功経験を「一般化」してしまいがちです。

人はそれぞれ、経験も、環境も異なります。絶対の正解はなく、「自分なりの正解」を見つけなければなりません。これは、待っていてやってくるものではありません。それを見つけれられるようになるために、学びの場が、どうあるのが良いのかも筆者は考えます。そこには、共に学ぶ楽しさ、知る楽しさがあるようです。

大谷 恭子（職員）



好きこそ物の上手なれ

『古代ギリシャのリアル』 藤村シシン著（実業之日本社）

本書の著者は、いわゆる、世間的に言う“オタク”と呼ばれる人物です。

著者略歴にある通り、著者の藤村シシンさんは、高校生の頃に見たアニメ『聖闘士星矢』の影響で、ギリシャ神話にハマり、人生を捧げ、本書を出版するまでに至ります。まさに、「好きこそ物の上手なれ」を地で行った人なのです。

私個人の意見として、ギリシャ神話の神々はなんとも人間味にあふれていると、感じるのですが、本書ではそれをより深く感じる事が出来ます。また、神話の世界のみならず、所謂「古代ギリシャ」と呼ばれる世界についても、著者の「好き」が随所に見られる、読みやすい文体で、軽妙に描かれています。

新入生の皆さんにも、自分が「上手」となれる「好きなもの」を、大学生活を通して見つけて欲しいと思います。

喜多村 侑佳（職員）



教員と学生がクール・ヘッドとウォーム・ハートを求める ゼミの意義がわかる、温かい本

『花失せては面白からず』

—山田教授の生き方・考え方』

城山三郎 著（角川書店）

昭和の初めに生まれた著者は、軍国主義教育の下で育ち海軍の少年兵に志願入隊しましたが、敗戦により価値観の根本的な考え直しを迫られ、東京商科大学に入学しました。そこで理論経済学の山田雄三教授のゼミに入りました。著者はゼミのゲーム理論のテキストを読む中で、現実から遠ざかる気がしてきて、「ゼミをやめさせていただきます」と結ぶ手紙を山田教授に送りました。これに対して山田教授は長文の手紙を返されて、その中で理論経済学の究極的な意義を丁寧に説明されました。結果として著者はゼミでの勉強を続けることになり、「二人ゼミナール」も含めて、実に 40 年以上も山田教授と知的な交流を継続できました。

教員と学生が出会い一緒に学ぶゼミの大切さが伝わってきます。山田教授の学生への思いのこもった手紙は著者の胸を熱くしました。私も指導教授から忘れがたい多くの恩を受けました。皆さんに大学で素晴らしい出会いがあることを期待しています。

早川 達二（経済学科）



スランプとの付き合い方を身につけて 目標を達成させよう

『スランプに負けない勉強法』

—どんな目標も達成できる！自分をマネジメントする 30 の習慣』

千葉博著（フォレスト出版）

「なかなかやる気が出ない」「忙しくて勉強する時間がない」「時々将来が不安になる」…などと思ったことはありませんか？きっと一度は思ったことがあると思います。スランプがない人なんていません。この本は、そんなスランプとの付き合い方（「勉強方法」と「感情コントロール方法」）を教えてください。例えば、スランプに陥りそうときのオーソドックスな対応法は「遊ぶこと」。また、時間が足りないという思いは単なる思い込み・決め付けであり、意外と多い「すき間時間を利用すること」が大事なことだと著者は言っています。

この本に書かれている方法は、誰でもどれも簡単に実践できると思います。現在目標に向かって頑張っている人はもちろん、まだ目標がないという人にもぜひ読んでもらいたい一冊です。

藤井 香苗（職員）



正しい日本を知ろう

『日本人はなぜ日本のことを知らないのか』

竹田恒泰著（PHP 新書）

現在、学校では日本の国の成り立ちについて教えていない。また、大学生でも「日本はいつどのようにできたのか」の問いに答えられる人も少ない。国際人としての前提は、自分の国について知っていることである。そして、その第一歩は、国の成り立ちを知ることではないだろうか。この本を手にすることで多くの人が日本に誇りを持って欲しい。現代の日本社会では日本が現存する世界最古の国家であることはあまり知られておらず、ほとんどの人が日本はいつどのようにできたのかを答えられない。その為、『日本書紀』と現代社会とのつながりを最低限知っておくことで、戦後教育によって失われた日本の精神と誇りを取り戻すべきである。本書では第1部で日本はいつどのようにできたのかを探り、第2部で、日本建国をどのように子供達に教えたら良いかを探っている。日本の独立自尊の為に、日本の国の成り立ちと先人の努力を知っておくべきである。この本を読むことで幕末以前のような真の日本人の輝きを取り戻して欲しい。

堀 晃太（人間文化学科1年）



コミュニケーションとは

『コミュニケーション力を引き出す —演劇ワークショップのすすめ』

平田オリザ，蓮行著（PHP 新書）

私たち日本民族は、長い間、シマ国ムラ社会で生まれ育ってきたため、「察し合う」「分かり合う」といった文化を生み出してきました。しかし、段々とグローバル化の波を越えていくにあたり、日本の従来型のコミュニケーションが通じなくなっているのです。新しい時代に合ったコミュニケーション環境を作っていかなければならないのですが、「空気を読む」「雰囲気壊さない」といった日本型コミュニケーションを強く推し進めようとする力が働いてしまうのです。その打開策として「演劇ワークショップ」なるものがあります。

「演劇ワークショップ」では演劇を習うことが目的の演劇教室とは異なり、参加者によってプログラム内容が変わることもあります。演劇は、価値観がバラバラな人達が短期間で作り出そうとする中で、文脈を擦り合わせるための知恵やノウハウを提供します。それは新たなコミュニティを形成し日本型コミュニケーション環境以外の必要性を強く感じさせてくれるものです。

あなたも是非新たなコミュニケーション環境の風を感じてみては？

松田 将太（人間文化学科1年）



善悪とはなんなのか。

『善と悪—倫理学への招待』

大庭健著（岩波新書）

善悪とはなんなのか？という点では、簡単に言うとうと良い行い、悪い行いといいまとめられるが、ではどんなことが良い行い、悪い行いなのかと聞かれると困ってしまう。言うだけなら簡単だが、なかなか難しいものである。確かに、良い行いと言われれば、人を助けることなどだが、逆に悪い行いと言われれば、人を傷つけることなどだろう。

しかしこの本では、そんなことさえ覆されそうになる。哲学的な考え方などが挙げられるが、例題として挙げられるものがなかなか面白かった。この例に出てくるような人は、善悪について語っていた。自分が生きているという実感を味わえることができればそれは善である、という考え方をしていた。だからこの人が「いじめ」というもので自分が生きているという実感を味わえることさえできれば、それも「善」であると挙げている。でもこのことを聞いて悩まされた。道徳的に考えれば、そんなことは自分勝手だと言えるが、自分では良いと思っていることも相手からすればどうなのかと考えた。

松本 勇慎（人間文化学科1年）



英語ってこんなにも面白い！

『日本人の英語』

マーク・ピーターセン 著（岩波新書）

皆さんは「英語」にどんな印象を持っているでしょうか？受験のために嫌々勉強したという方も少なくないかと思われます。「なんでここは the をつけなきゃいけないんだろう？」「なんでここは the をつけちゃだめなんだろう？」という素朴な疑問も「そんなことは考えなくていいからこの通りに覚えろ」と一蹴され、英語は暗記する科目なんだと感じてしまった人もいるでしょう。

この本はそういった一度は抱いてしまいがちな英語に対しての疑問を、筆者が実際に日本で目にしたおかしい英文を具体例に挙げてユーモラスに解説してくれています。

英語と聞いて身構えてしまった方も、もともと英語が好きという方も、この本を読むともっと英語のことを知りたくなってしまうかもしれません。

丸谷 美貴（職員）



英語に対する意識を変える本

『日本人の英語勉強法』

—なぜ日本人はこんなにも英語ができないのか？

在日 39 年、7000 人の日本人を教えてわかったこと』

ジェームス・M・バーダマン 著 (KADOKAWA)

近年、日本では英語を勉強する人が増えていますが、この本で著者は日本人が英語を習得するには 2200 時間かかると書いています。果たしてそんなに勉強をする必要があるのでしょうか？この本は、英語の勉強法もですが、何より私達日本人の英語に対しての意識を変えさせてくれることが書かれている本だと思います。

内容は世間で言われている英語の俗説に対して、真相が述べられています。例えば、俗説「日本人は英語が不得意である」には真相「言葉はコミュニケーションのツール。得意も不得意もない」と書かれています。もちろん、詳しく真相の解説もされており、どれになるほど！納得！と思うことが書かれています。2200 時間勉強する必要があるのかも書かれています。

これから英語の勉強をしようと思っている人も、勉強をしている人も、この本を読んで英語に対する意識を変えてみませんか？

吉津 悠子（職員）



読みたくなる！水族館の秘密を今知ろう！！

『水族館の通になる

一年間 3 千万人を魅了する楽園の謎』

中村 元 著（祥伝社新書）

この本を読めば水族館の謎が解ける！この本は毎年人が多く集まる水族館の謎について書かれていて、水族館の常識は世間では非常識。水族館でしか起きない出来事を、水族館でしか解決する事が出来ない方法で解決している。水族館では常識の事だが一般的にはあまり知られていない事がたくさんある。身近な魚の飼育の難しさ、深海生物の輸送方法、そしてイルカに隠された能力などこの本でしかわからない事が分かり、より水族館に興味を持てる、そんな本だと思います！

「水族館は楽しいが、いつも見落として損をしてしまう。」「動物が見えなかったり、知識が無かったりして疑問を持ってしまう。」しかしこの本はそんなみなさんの悩みや疑問に答え、もしかしたら生活やら事業の役にも立つかもしれない。私はこれを読んであまり興味が無かった海の生物の生態を詳しく知る事が出来て興味を持てるようになりました！みなさんもぜひ読んで水族館の秘密を知ってみましょう！

安保 大輝（人間文化学科 1 年）



ネガティブな思考をコントロール 自分の力をさらに高める

『正しい恨みの晴らし方』

—科学で読み解くネガティブ感情—

中野信子, 澤田匡人 著 (ポプラ新書)

この本は脳科学者の中野信子先生と心理学者の澤田匡人先生が、恨みをモチーフに考え、人の感情について読み取っていく本です。どんな人でも感じてしまう「妬み」や「嫉妬」など、様々な感情を持ちます。そんなことを感じる時、人の、脳や心ではどんな変化が生じるのか、どんな対処法があるのか、どうすればいいかということ、心理学や脳科学の考えで解き明かしていきます。最近では、ワイドショーや SNS、LINE など、近代的になってくる反面、他人の生活に容易に干渉することができます。この時、カップルが写っていたり、旅行に行っていたりするのを見ると、自分も欲しくなったり行きたくなったりしますよね？または他人に恨みを抱くことも…。

そう言った感情をコントロールして、有効活用する術を提案してくれます。ぜひ読んでみてください。

川田 浩介 (建築学科 1 年)



私たちがなぜ生き残れたのか？

『人類進化 700 万年の物語』

—私たちがなぜ生き残れたのか—

チップ・ウォルター 著，長野 敬，赤松真紀 訳（青土社）

人類系統樹についての視点は、ここ 5 年あまりで大きく変化したのだそうです。最近 180 年の間に偶然発掘された証拠によって、27 種もの人類（ヒト族）が進化して地球上に現れ、しかし、そのうちのたった 1 種類のみ、すなわちホモ・サピエンスのみが、絶滅しないで残っているのだ、ということが分かったのです。類人猿（ゴリラ、チンパンジー、ボノボなど）のように何種類かが共存しないで、なぜ 1 種類になってしまったのでしょうか。

約 700 万年前に人類が誕生してから、順々に進化した人類が 1 種ずつ生まれてきて取って代わった？いずれもっと進歩した賢い人類が今の人類に取って代わる？それとも、社会的、文化的、技術的な新しいタイプの進化を成し遂げ続けている今の人類は、それ故に滅びてしまうかもしれない？こんな観点から、私たち自身の在り方を振り返ってみるのも、大学生時代でしか出来ないことの一つでしょう。

松田 文子（学長）



悲しい物語

『容疑者 X の献身』 東野圭吾 著（文藝春秋）

妻とその娘が元夫と喧嘩をして殺害してしまう。警察に自首しようと考えていたが隣に住んでいた天才数学者である石神が救いの手を差し伸べてくる。完璧なアリバイを作り警察の目を欺く。これに困り果てた刑事である内海薫とその先輩の草薙は知り合いの天才物理学者である湯川に相談を持ちかける。すると、石神と湯川は大学時代の友人であったことが判明する。湯川は石神が事件に絡んでいるのではと推理する。これは天才数学者と天才物理学者による推理小説である。石神は自分を犠牲にしてまで親子二人を守ろうとし、湯川は石神が友人であるからこそ解決によって救おうとしている。物語の最後には湯川の推理によって事件は解決するわけだが…。

事件が解決したのにも関わらず悲しい結末になってしまう作品である。

伊藤 豪俊（建築学科 1 年）



レジェンド・ファンタジー

『ハリー・ポッターと賢者の石』

J.K. ローリング 著，松岡佑子 訳（静山社）

魔法学校に入学した、主人公ハリーポッターは、自分が悪の帝王ヴォルデモートの力から、唯一「生き残った男の子」だと知ることになる。学校内に保管されている「賢者の石」が、ヴォルデモートの手に渡ることを阻止するため、友人のロンとハーマイオニーと共に、ハリーは悪に立ち向かう。

物語中でハリーを助ける人物は、主に 4 人いる。まず、主人公ハリーと対等な立場におり、お互いを支えあう、親友のロンとハーマイオニー。素直な助言をくれ、力を貸してくれるハグリッド。そして、深い言葉を与え、自分で考えて行動ができるように、導いてくれる校長ダンブルドアである。物語の真の「悪役」はヴォルデモートである。

この作品の魅力的な点は、主人公だけではなく、他の人物にも読者が惹かれる言葉、行動が表されているところである。

大澤 祐美（人間文化学科 1 年）



思いもよらないラストがあなたを待っている

『花の鎖』

湊かなえ 著（文藝春秋）

湊かなえの小説の特徴は緻密に練られたストーリーと、思いもよらないラストが待っていることである。

今回私が紹介する『花の鎖』も、期待を裏切らない作品になっている。本の主人公は三人で、ガン患者である祖母から高額なオークションの入札を頼まれた梨花、夫の仕事が思うようにいかない美幸、大学時代の親しい友人が重い病気にかかった紗月の出来事を交互にカットインしてストーリーが構成されている。その三人に共通して、重要な役割を担っているのが謎の男「K」である。梨花は、祖母のため、「K」にお金の援助を頼むことにした。しかし、「K」の秘書から「お金を払いたくない」と拒否。さらに、美幸は、夫がいとこの陽介に仕事で裏切られてしまう。そんな三人の抱える問題が解決するにつれ、三人の関係も解き明かされる。複雑な人間関係の中で、許せない相手のことを身をもって救った紗月の勇気ある姿に私は感動した。

読み進めるごとに衝撃な展開が待っている。登場人物の様々な心情に感動すると思うので、ぜひ手にとって実際に読んでほしい。

大窪 和希（人間文化学科 1 年）



「人間」として問題に向き合うことのできる一冊。

『往復書簡』
湊かなえ 著（幻冬舎）

私がこの湊かなえさんの『往復書簡』を選んだ理由は、もともと湊かなえさんの小説が好きだったからです。私は本を選ぶとき、作者で選ばずその時心惹かれたものを選ぶのが常なのですが、湊かなえさんの『少女』を読んだ際に現代社会の問題点を読者に提示するストーリーが好きになり、それ以来よく湊かなえさんの小説を読んでいきます。

この『往復書簡』は、高校教師の主人公が恩師からの依頼を受けて二十年前の事故と出会い、事故に関わる過去の生徒たちの話を聞く中で、教師としても人間としても様々なことを考えながら、恩師がなぜ自分に依頼したのか、その理由を探す物語です。ただ文面だけで真相を明らかにするのではなく、文通の形式を通して解明しています。それによって、単純なミステリーよりも物語の世界に入りやすく、「教師」ではなく「人間」として問題に向き合うことのできる一冊です。

片山 菜々花（人間文化学科 1 年）



歴史を変える瞬間

『天地明察』

冲方丁 著（角川書店）

時代小説なのに、戦がない。なのに面白い。小説の舞台は、まだ地球が球体である事も知られていない江戸時代前期。そんな時代に、幕府の基打ちであった主人公算哲は独学の算術の高い能力を幕府に見込まれ、800年前から幕府が使用している暦がずれている為、日本独自の新たな暦を作るようにと命令を受ける。その後、主人公は和算家の関孝和の設問絵馬を発見する。関と絵馬を通して算術勝負を繰り返す主人公。それから主人公は北極出地へ行く。旅から帰ってきた主人公は、水戸藩主徳川光圀等の後押しもあり、暦を作る隊の総大将となる。主人公は三種の暦のどれが正確か比較検討し、最高の暦を決定した。幕府は改暦をするように朝廷へ申し立てる。しかし朝廷は、改暦は必要ないとして、幕府の上申を却下してしまう。主人公は朝廷に改暦を認めてもらうために、多くの民の前で三暦勝負を行なうことにした。しかし、三暦とも日食予報を外してしまい、朝廷を領ける事は出来なかった。途方にくれる主人公の前に関が現れ物語はクライマックスを迎える。

重森 貴寅（人間文化学科 1 年）



物語は最悪の方向へ・・・

『貴族と奴隸』

山田悠介 著（文芸社）

僕が紹介する本は『貴族と奴隸』というタイトルの小説です。

ある日、目の見えない主人公とその周りの友達は何者かに拐われ行き着いた先で貴族と奴隸に別れてシミュレーションとは名ばかりのサバイバルゲームをするという話です。邪魔をする登場人物では平瀬というのが出てきて物語は最悪の方向へ。ネタバレになるといけないのでここまでで。

2001 年のデビュー作『リアル鬼ごっこ』の大ベストセラーに続き、『スイッチを押すとき』、『その時までサヨナラ』などのヒット作を生み出した山田悠介の作品で、『リアル鬼ごっこ』同様に映画にもなっているので、映画を観たあとで小説を読むとまた新たな感じがたが楽しめるかもしれません。

是非！手にとってみてください。

瀬川 大毅（建築学科 1 年）



下町ヒューマンドラマ

『下町ロケット』

池井戸潤 著（小学館）

純粹に自分は、中小企業という弱い立場で
ありながら、自らの思いを主張し大手企業と戦
う姿が恰好いいと思った。また、会社倒産の危
機に直面したが、それを乗り越え特許の大切
さ、夢を持ち続けることの大切さ、技術者が今
の生活を支えていること、本当に多くの大切な
ことが詰まっている人としての生き方を訴え
かけているように自分は感じた小説になって
いる。

以前、ドラマの下町ロケットは見たが、本
を読んだのは今回が初めてだった。本の『下町
ロケット』を読むと、技術の対価が、夢でも良
いのではないかと思う気持ちになった。お金よ
りも価値があるモノがあるのだと気づき、技術
の素晴らしさを感じた。最後に、この本は本当
に全ての人にすすめたい作品になっている。夢
を持つことの大切さ、信念を貫くことの大切
さ、絶対に諦めない姿勢を保つことの大切さな
ど、すべての人が何かしら共感出来るような部
分がある作品になっていると思う。

園尾 晋吾（建築学科 1 年）



聞こえない≠伝わらない

『レインツリーの国』

有川 浩 著（新潮社）

向坂伸明はパソコンで自分の好きな小説の感想を書いていた『レインツリーの国』というブログを見つけ、思い切ってその管理人である「ひとみ」にメールをした。メールでのやり取りを続けるうちに二人はついに会うことになった。しかし、ひとみは聴覚障害者だった一。

伸明は「ひとみ」のこと、障害の事を理解しようと奮闘する。しかし、誰もがそういうわけではない。この作品は「障害者」と「健常者」のギャップの面を多く取り上げており、その度にぶつかり合いながら健常者がなかなか理解できない障害者のハンデを共に乗り越えていく。人間にとって大切な事を考えさせられる素晴らしい作品である。

また、本作は有川浩の人気ベストセラー『図書館戦争』シリーズ『図書館内乱』の中で登場するものを実際に書籍化したものである。『図書館戦争』と併せて読むと更に深まるだろう。

高橋 悠香（人間文化学科 1 年）



世界における日本人が残したジョーク集

『世界の日本人ジョーク集』

早坂 隆 著（中公新書ラクレ）

ジョークの世界にも日本人が「出演」するものはしっかり存在する。全体に占める割合としてはアメリカ人やイギリス人、ロシア人やユダヤ人らを笑うものと比べれば少ないものの、それでもそこでは多種多様な日本人像が描かれ、笑いの対象となっている。ヒトやモノのグローバリズムが急激に進展していく大きなうねりの中で、日本人は、「自分たちは世界からどう見られているのか」という問いかけを、それまで以上に強く抱くようになった。これは、「日本人とはどういう民族なのか」という自己認識に関する輪郭が、あやふやになっている一つの証左なのかもしれない。

ジョークは時代の雰囲気や空気に反応しながらそのカタチを変えていくが、日本についてのものも同様である。今後、どのような「日本人ジョーク」が生まれていくのか。非常に楽しみである。

最後に、イギリスの哲学者フランシス・ベーコンの『学問の進歩』より、こんな言葉を。

「冗談は、しばしば真実を伝える手段として役立つ」

田中 琢斗（建築学科 4 年）



本からのアドバイス

『西の魔女が死んだ』 梨木香歩 著（新潮文庫）

新しい生活が始まり疲れてしまうこともある。そんな時にたくさんのアドバイスをくれ、前向きな考え方を与えてくれるのがこの本です。この本はおばあちゃんの突然の死から始まります。一見暗い物語のように感じるけど最後には明るい気持ちになれる本です。

学校での人間関係に悩む主人公のまいが田舎のおばあちゃんの家で過ごす日々の中でたくさんのことをおばあちゃんに教えてもらい、また新たな1歩を踏み出していく物語になっています。まいのおばあちゃんは外国の人なので考え方が日本人よりも楽観的です。そんなおばあちゃんがわかりやすく例え話を出してたくさんのアドバイスをくれます。

悩んでいてもなかなか声に出して相談するのは難しい、でも解決の仕方も分からなくてもモヤモヤして、どうしたらいいのか先が見えなくなる時は誰にでもあるけど、そんな時に助けてくれるのが本だと思います。

筒井 裕香（人間文化学科1年）



愛のうたを届ける 切なくとも愛しい物語

『銀の犬』

光原百合 著（角川春樹事務所）

愛する人がいますか。敬愛でも友愛でも、もちろん恋愛でもいい。愛する人がいますか。愛する人に想いを伝えていますか。愛する想いがどれほど尊いものなのか知っていますか。これは愛するモノたちを支え、隠されていた想いを届ける物語。すれ違いって怖い。この本を読んだとき、まず思ったのはそれでした。そんなにお互いを想い合ってるのにどうしてそうなった!?!と叫びたい。しかも彼らを分かつのは「死」。後悔する人、目を背けるモノ、過去に縋りつく人。彼らを支え、想いの架け橋となるのは旅人オシアンとブランでした。2人は一体何者なのでしょう。特に謎に溢れるのはオシアン。「祓いの楽人」である無口な人。その名前は妖精の女王に愛された伝説の楽人と同じもの。まさか彼は…。

ところで、作者さんは尾道大学の教授なんですよ。講義を受けてみたいです。この本の中で私が好きな話は「三つの星」です。王と妃と騎士のお話。ランスロット卿とは違うのですよ。

藤井 由実（人間文化学科 1 年）



人間らしく生きるには

『怪物はささやく』

パトリック・ネス 著，池田真紀子 訳（あすなろ書房）

コナーは母親が病気になってからクラスメイトにいじめられる様になった。毎晩悪夢を見て目が覚める日々。そんな時彼の前に怪物が現れる。怪物がささやく物語によって、彼は真実に導かれてゆく。怪物の物語には、コナーが嫌悪するものに類似した登場人物が現れた。故にコナーは怪物の話に耳を傾けるが、決まって物語の結末が気に入らない。ちっともコナーの現実の助けになっていないからだ。そして、結末は必ずごまかされていた真実が明かされる。コナーは真実を認めなかった。コナーもまた真実をごまかしていたからだ。

現実で辛い時、私もコナーと同様に罪悪感から逃れる為に真実を隠す。だが、同時に自分自身に嘘をつき続けなければならない枷をはめられる。罪悪感に追い詰められたまま助けを求められない。だが前にも進めない。そんな時この本が役に立つかもしれない。怪物は現実問題に直接関係した物語は話さない。けれど、真実に目を向けること、自分に罰を与えることが人間らしさと教えてくれる。「人生とは、言葉でつづるものではない。行動でつづるものだ。何をどう考えるかは重要ではないのだよ。大切なのは、どう行動するかだ。」

怪物はコナーだけでなく、読み手の枷も外すことだろう。

松浦 詩歩（人間文化学科 1 年）



「心でつながる家族」を学べる一冊！！

『精霊の守り人』

上橋菜穂子 著（新潮文庫）

この本は、「家族とは何か」「優しさとは何か」「戦うとは何か」について私たちに語りかけてくる一冊だ。物語は旅人で短槍使いの「バルサ」が溺れかけていた〈卵の守り手〉である「チャグム」を助けるところから始まる。「卵」とは、その国では百年に一度恵みの雨を降らすことのできる「ニュンガ・ロ・イム」という生物の卵のことで、もしこの「ニュンガ・ロ・イム」の卵が孵化できなかったら、国中の何百人という人間が餓死してしまうことになる。「チャグム」と「バルサ」は卵を孵化させるために旅を続け、その道中で「バルサ」の幼馴染で薬使いの「タンダ」や、「タンダ」の師匠で国内随一の呪術師である「トロガイ」と出会う。そしてそれらの仲間とともに卵の孵化を邪魔してくる「ラルンガ」〈卵食い〉と立ち向かうのだ。この本を読んで私は「心でつながる家族」とは何かについて考えさせられた。この本を手にとった人はぜひともこの問題にぶつかり、答えを見つけてほしいと思う。

蜜石 武留（人間文化学科1年）



自分の存在意義と仲間の存在の大きさ

『桜風堂ものがたり』

村山早紀 著（PHP 研究所）

銀河堂書店文庫担当の月原一整は他者との関わりを避ける性格でありながら、大好きな本についてやりたいことがたくさんある、忙しいが充実した生活を送っていた。しかし万引きが多発し問題となっていたある日、月原が現行犯として追いかけた万引き犯の少年が車に跳ねられたことにより、批判的な社会の声を浴びるようになる。書店への迷惑を考え銀河堂書店を離れ、もう書店員としての仕事に戻れないだろうと落胆する月原のことを思った元同僚の書店員の支えにより、月原の悲願で売りたいかった本を売り出すことができたばかりではなく、SNS 上で月原と言葉を交わし意気投合した桜風堂の店主に桜風堂書店を任せられ、再び本を売ることが可能になった。

この物語から「過去に取り返しがつかない失敗をして後悔していても、その失敗に気づくことで、今後に活かしていくことが幸福に生きるための成長に繋がること」、「生きている以上人には必ず存在意義があり、命が大切であること」「過去の繋がりであってもその人を大切に思うことには意味があること」を学ぶことができた。

道上 拓海（建築学科 1 年）



痛々しいまでの純粋さが眩しいです

『麒麟』

山田悠介著（角川文庫）

麒麟には父親がいません。天才精子バンクで生まれたからです。母の厚子は麒麟を身ごもると、胎教からはじめ、生まれた後は脳が活発になる薬を飲ませ、食事はすべて頭に良いものを与えるという狂気じみたレベルの育児をしました。すべては天才児の母親として周囲の人間に自分を見直させるためです。そんな狂気じみた育てられ方をしても、麒麟は家族のことが大好きな真っ直ぐで素直な子に育ちました。その後大好きな母のため、5才までに小学校6年生レベルの勉強をマスターした麒麟ですが、中学校の勉強内容になるとさっぱりできなくなり、家族から見捨てられます。食事も満足に与えられない生活を強いられませんが、それでも家族の絆を信じ続けました。どん底の生活を一年続けた後、麒麟は孤島に幽閉されます。幽閉された6才から17才までの11年間も変わらず家族を信じ続けました。本書を読んで何よりも麒麟の真っ直ぐさに心打たれました。痛々しいまでに純粋なその心は、とても眩しかったです。

山根 詩菜（建築学科1年）



「心を整える。」・・・。

『心を整える。』

—勝利をたぐり寄せるための 56 の習慣—

長谷部誠 著（幻冬舎）

勝利をたぐり寄せるための習慣として、プロサッカー選手の長谷部誠さんが自身初となる自己啓発書を描いた。本文には、自分自身の心と向き合い変えるべき自分。また変えなくてはいけない自分と向き合った。その中では、過去のゲームから学んだことや、その時一緒にピッチに立っていた戦友。また、先輩や恩師、仲間との出会いから自分自身の足りないものを明確に教えてもらった。実はそれらのことはとても身近で気づけていないことだった。それらのことを知れたが、自分自身の心や自分への甘さ。葛藤や世間の知らなさをそこでも知り、自らとぶつかった。しかし、己自身と向き合うことができ、自分自身が弱い人間だと知り、心を整えることに神経や時間を費やすことが大切だと気づいた。

サッカーをしているキミ。スポーツをしているキミ。また何かにつまずいているそこのあなた。自分自身と向き合う時間を作って、自分を知り、新しいピカピカした自分と出会ってください。

「心を整える。」…。それは小さな気づきです。

和泉 翔大（人間文化学科 1 年）



現状に納得できず立ち尽くしている、そんなあなたに。

『夢をかなえるゾウ』
水野敬也 著（飛鳥新社）

私がオススメする本は『夢をかなえるゾウ』という一冊です。この本はガネーシャという神様が、主人公および読者にどうすれば現状を打破できるのかという疑問に対して、いま、すぐにでも始められる小さな積み重ねの大切さを教えてくれる一冊です。特徴としてはガネーシャという神様を人間の立場に置き換えたような視点で描かれているため親しみを持ってよみふけることができる点です。また、主人公とのやりとりが非常に興味深くボケとツッコミを含んだエンターテインメント性を表に出すことで違和感なく次々にページをめくりたくなる衝動に駆られてしまうこと。

課題を与えられ実行する。この繰り返しが目の前で変わっていく主人公の成長を強調させ、もしかしたら自分も変われるのではないだろうかと思わせてくれる。もし、現状に納得できず立ち尽くしている、そんな人がいるのなら是非手に取っていただきたい。きっと、ものにできるものがあるはずです。

岡田 紘汰（建築学科 1 年）



幸せとは、何ですか？

『また、同じ夢を見ていた』

住野よる 著（双葉社）

あなたにとっての幸せとは何ですか？このお話は、幸せについて考えさせられるお話です。主人公の小柳奈ノ花が小学校の国語の授業で、「幸せって何か」を考えることになり、自分なりの答えを探すこととなる。奈ノ花が学校の外で出会った、年上の友達、アハズレさん、南さん、おばあちゃんの三人は、奈ノ花が「幸せって何か」という答えを見つけ、幸せでいれるように導いてくれる。しかし、まだまだ子供であるクラスメイトは、賢い奈ノ花の考えが理解できず、奈ノ花はクラスで孤立してしまう。だが、奈ノ花はアハズレさんたちにヒントをもらい、自分の力で幸せとは何かを見つける。そして、大人になった奈ノ花は自分の幸せを掴み取り、幸せに暮らしている。その幸せとは「自分が嬉しく感じたり、楽しく感じたり、大切な人を大切にしたり、そういった行動や言葉を自分の意思で選べること」である。私は、このお話を読んで、私も自分の幸せを見つけて、その幸せを掴みに行かないといけないなと思いました。

橘高 裕実（人間文化学科 1 年）



「幸せになりたい」って言葉、ちょっと耳を澄ますと、若い子の会話から必ず聞こえてきます。この本から幸せになるためのヒントがつかめるかもしれませんよ。

『幸せのメカニズム』

—実践・幸福学入門』

前野隆司 著（講談社）

著者はもともと、ロボットや脳科学の研究者でした。科学技術のおかげで、日本は物質的に豊かになりました。それにつれて人の心も豊かになったのでしょうか？そんな疑問に答えるように、著者はロボットの研究から、人間の心の研究にシフトしました。

そして、工学者らしく基礎学問の成果を人々の役に立つ形で研究し、体系化する決意をします。それが「幸せとは何か」という研究です。日本では心理学者による幸福研究はまだ始まったばかりらしいです。

「幸せになりたい」の「幸せ」って、なんなのでしょうか？それを、この本では明らかにしていきます。どうすれば幸せになれるのか？という大きなヒントを与えてくれます。もちろん幸せは人それぞれ違うので、この通りにしていけば幸せになれる、というものではないかもしれません。でもこれからの長い人生の中、一度読めば、また手に取りたくなる一冊です。

辻 圭位子（人間科学研究科1年）



精神の強さや思いやりの優しさを学べる一冊

『あなたをずっとあいしてる』

宮西たつや 作絵（ポプラ社）

私の『新入生にすすめる 50 冊の本』は『あなたをずっとあいしてる』です。この本の内容は、群れを荒らしたり、言うことを聞かない自分勝手な「バルド」というティラノサウルスに、主人公が勝負を挑みに行きますが、まだ幼少である主人公では体格差で負けてしまいます。しかし、その後会う「キラリ」や「メソメソ」という種類の違う恐竜と出会うことで精神的な面を共に成長していきます。体格的にも精神的にも成長した主人公は「バルド」に再決戦を挑みます。主人公は勝負に勝つことができ、「バルド」と和解をすることができました。

力が弱くても精神的な面があるだけで力に勝ることができることや、思いやりの優しさをこの本では学ぶことができると私は思っているので、新入生にすすめたいです。

壺谷 悠希（建築学科 1 年）



一分前の出来事を思い出せない。
健忘症患者 H・M の世界をあなたは想像できますか。

『ぼくは物覚えが悪い
—健忘症患者 H・M の障害』
スザンヌ・コーキン 著，鍛原多恵子 訳（早川書房）

この本は、最近読んだ本の中で最もインパクトの大きな一冊でした。記憶や認知について興味のある人だけでなく、きっと多くの人が引き込まれるように読み終えるのではないのでしょうか。

十歳からてんかん発作を繰り返していたヘンリー・グスタフ・モレゾンは、両側側頭葉摘出手術により新しい記憶をつくれなくなりました。ヘンリーは研究症例としてイニシャルで呼ばれるようになり、残された能力や失われた能力の研究により、短期記憶・長期記憶の記憶システムの存在が実証されました。二十七歳での手術から八十二歳で亡くなるまで、新しいことを記憶することができなくなったヘンリーですが、出版された本や研究症例により、多くの人の記憶に残ることになりました。ヘンリーの生涯が私たちの心に残してくれたものの大きさを、改めて感じさせる一冊です。

村井 宏枝（人間科学研究科 1 年）



感動あり涙ありの心温まる話です！

『80 点コロッケー涙があふれて心が温くなる話』
ニッポン放送『上柳昌彦のお早う Good Day!』編（扶桑社）

この本は、『80 点コロッケ』という題名だけど、
いろんな話も仕込まれていてコロッケのことだけ
ではなく他のことも書いてあるので結構楽しめます！
長々とした本が嫌いな方はおすすめできます。
一つの話は 10 ページ前後という短い話もあるので
少しずつ読めておすすめです！

どの話もみんな何かを成功させるために努力を
して努力をして努力をして何かを成し遂げるとい
う感動あり涙ありの心温まるはなしです！

努力は報われるということがしみじみと伝わっ
てくる話になっております！この本は 10 万部の
ベストセラーとなっております！

100 点満点じゃなくて 80 点取ればいいです！感
動の実話を 20 話収録しているので途中で飽きる
ことはありません！

みなさん！ぜひぜひ読んでみてください！

森田 和輝（人間文化学科 1 年）

推薦図書リスト

『あなたをずっとあいしてる』宮西たつや作絵(ポプラ社, 2015 年)

『一汁一菜でよいという提案』土井善晴(グラフィック社, 2016 年)

『いのちの落語』樋口強(文藝春秋, 2005 年)

『桜風堂ものがたり』村山早紀(PHP 研究所, 2016 年)

『往復書簡』湊かなえ(幻冬舎, 2010 年)

『怪物はささやく』パトリック・ネズ ; シェーン・ダウト 原案 ; 池田真紀子訳(あすなろ
書房, 2011 年)

『学年ビリーのギャルが 1 年で偏差値を 40 上げて慶應大学に現役合格した話』坪田信
貴(KADOKAWA, 2013 年)

『キン』有川浩(新潮社, 2010 年)

『貴族と奴隷』山田悠介(文芸社, 2013 年)

『キッチン』吉本ばなな(新潮社, 2002 年)

『逆転のメット: 箱根駅伝もビジネスも一緒です』原晋(祥伝社, 2015 年)

『キャッチ!: JR 福知山線脱線事故がわたしに教えてくれたこと』岡崎愛子(ポプラ社,
2015 年)

『キン』山田悠介(角川書店, 2013 年)

『銀の犬』光原百合(角川春樹事務所, 2006 年)

『国を誤りたもうことなかれ』近藤道生(ダイヤモンド社, 2006 年)

『心を整える。: 勝利をたぐり寄せるための 56 の習慣』長谷部誠(幻冬舎, 2011 年)

『古代ギリシャのリアル』藤村シシ(実業之日本社, 2015 年)

『コミュニケーション力を引き出す: 演劇ワークショップ のすすめ』平田莉サ, 蓮行(PHP 研究所, 2009 年)

『幸せのメカニズム: 実践・幸福学入門』前野隆司(講談社, 2013 年)

『下町ロケット』池井戸潤(小学館, 2010 年)

『調べてみよう!! 地面のボタンのなぞ: 一番えらいボタンをさがせ!』日本土地家屋
調査士会連合会編(日本加除出版, 2013 年)

- 『人類進化 700 万年の物語: 私たちだけがなぜ生き残れたのか』チップ・ウォルター ; 長野敬,
赤松真紀訳(青土社, 2014 年)
- 『水族館の通になる: 年間 3 千万人を魅了する楽園の謎』中村元 (祥伝社, 2005 年)
- 『スランプに負けない勉強法: 1 番難しい試験に合格させるプロが書いた!: どんな目標も達成
できる! 自分をマネジメントする 30 の習慣』千葉博(ワイルド出版, 2010 年)
- 『精霊の守り人』上橋菜穂子(新潮社, 2007 年)
- 『世界の日本人ジョーク集』早坂隆(中央公論新社, 2006 年)
- 『善と悪: 倫理学への招待』大庭健(岩波書店, 2006 年)
- 『そして生かされた僕にできた、たった 1 つのこと: プラス思考で奇跡を起こした少年』
ダン・カ, スティーヴ・アウイン ; 奥野節子訳(ダイヤモンド社, 2012 年)
- 『正しい恨みの晴らし方: 科学で読み解くネガティブ感情』中野信子, 澤田匡人
(ポプラ社, 2015 年)
- 『天地明察』沖方丁(角川グループパブリッシング(発売), 2009 年)
- 『東京すみっこごはん』成田名璃子(光文社, 2015 年)
- 『西の魔女が死んだ』梨木香歩(新潮社, 2001 年)
- 『日本人の英語』マーク・ピーターセン(岩波書店, 1988 年)
- 『日本人の英語勉強法: なぜ日本人はこんなにも英語ができないのか? 在日 39 年、7000
人の日本人を教えてわかったこと』ジェームス・M・バーターマン(KADOKAWA, 2013 年)
- 『日本人はなぜ日本のことを知らないのか』竹田恒泰(PHP 研究所, 2011 年)
- 『日本男児』長友佑都(ポプラ社, 2011 年)
- 『ハーバートの人生を変える授業』タル・ベン・シャハー ; 成瀬まゆみ訳(大和書房, 2015 年)
- 『80 点ロック: 涙があふれて心が温くなる話』ニッポン放送『上柳昌彦のお早う
Good Day!』編(ニッポン放送, 扶桑社(発売), 2008 年)
- 『花失せては面白からず: 山田教授の生き方・考え方』城山三郎(角川書店, 1996 年)
- 『花の鎖』湊かなえ(文藝春秋, 2011 年)
- 『ハー・ポッターと賢者の石』J. K. ローリング ; 松岡佑子訳(静山社, 1999 年)
- 『勉強するのは何のため?: 僕らの「答え」のつくり方』菅野一徳(日本評論社, 2013 年)

『僕たちが何者でもなかった頃の話しよう』 山中伸弥 [ほか] (文藝春秋, 2017 年)

『ぼくは物覚えが悪い:健忘症患者 H・M の生涯』 スザンヌ・コーキン ; 鍛原多恵子訳 (早川書房, 2014 年)

『また、同じ夢を見ていた』 住野よる (双葉社, 2016 年)

『三日間の幸福』 三秋縊 (KADOKAWA, 2013 年)

『宮崎アニメの暗号』 青井汎 (新潮社, 2004 年)

『夢をかなえるゾウ』 水野敬也 (飛鳥新社, 2007 年)

『容疑者 X の献身』 東野圭吾 (文藝春秋, 2005 年)

『レインツリーの国』 有川浩 (新潮社, 2006 年)

新入生にすすめる 50 冊の本 2018

2018 年 4 月 1 日発行

編集・発行

福山大学図書館運営委員会図書館企画部会

〒729-0251

広島県福山市東村町字三蔵 985 番地の 1

福山大学附属図書館